

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570207779		
法人名	有限会社せせらぎ		
事業所名	グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)		
所在地	秋田県能代市落合字下谷地251-6		
自己評価作成日	令和3年11月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

能代市落合自治会に加入し清掃活動、盆踊りへの参加、子供会の七夕来訪など地域とのつながりを大切にしています。また関連施設合同のレクリエーション開催により家族、地域住民との交流をしています。運営推進会議の老人クラブ、自治会長の参加により透明性のある明るく安心した福祉サービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に立地し、家族や地域、関係者との関わりが強く、オープンな事業所であり、外部の意見を取り入れ運営に活かしている。ホールからは日本庭園が見られ落ち着いた環境であり、事業所内は清潔で、快適な空間である。運動機能の低下予防のため、多彩なレクリエーションを取り入れ、また一人ひとりの思いや生活歴に着目し、寄り添った支援をしている。タブレットやオンライン研修の導入によりケアの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を玄関に掲げ職員全員意識し実践につなげている。	企業理念の他、毎年職員全員で話し合いその時々事業所の状況を鑑みて決定し、ホームの理念を掲げている。毎月の職員会議で話し合い、方向性を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており清掃活動、定期的な集会等には積極的に参加している。子供七夕の行事にも声をかけてもらうなど老人クラブや近隣の方々とも顔なじみである。	ともに暮らす地域住民の一人として、自治会の年2回の草取りなど地域の活動に積極的に参加している。運営推進会議には、自治会長、老人会会長、地域住民がメンバーとなっており、双方向で情報交換を行い、相互関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会長、老人クラブ会長の運営推進会議への参加交流などにより話し合いを持ち通して地域の人々に伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況、入居者の状況、研修報告などを伝え、参加者から出た意見を参考にしサービス向上に活かしている。	家族代表、自治会長、老人会会長、地域住民、市職員、消防署長、専務、管理者、棟責任者が参加し、多角的な話し合いを行っている。コロナ禍で開催が難しい場合は、文書での報告となっているが、様々な視点からアドバイスをもらえるよう工夫し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者が参加している。相談事項があれば積極的に後で出向き指導を受けサービス向上に努めている。	運営推進会議だけではなく、日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを伝えている。制度改正、退職者に伴う常勤換算数、感染症、ヒヤリハットなどのアドバイスや問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会設置し全職員が委員となり研修、話し合いをしている。玄関にセンサーを取り付けており施錠をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事例はない。毎月職員会議で、日々のケアの振り返りを行ったり、オンライン研修で理解を深めたりすることで、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し全職員が委員となり社内研修でも話し合いの場を持ち見過ごされることのないよう虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は必要性を認識、研修で学習している。また社会福祉協議会でやっている、日常生活自立支援事業は場合により関係者と話し合い取り入れしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する時には利用者や家族などに解約内容を再度説明している。不安や疑問点を聞かれた時には十分な説明を行い理解、納得を図るよう努めている。改定がある場合は文書にて改定箇所を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情処理箱を設置している。要望、意見があった場合職員会議で話し合い運営に反映させている。家族会、運営推進会議への参加で外部者へ表せる機会を設け運営に反映させている。	前回課題に挙げられた、アンケートの内容について話し合い見直しをしている。それを活かし、利用者一人ひとりの意見や思いを反映させるよう努めている。	アンケートの見直しを3ヶ月毎に行っているが、その結果からは大きな変化が見られない。利用者一人ひとりの興味や記憶から思いを探るなど要望の引き出し方を再考することに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において職員の意見や提案などを聞いている。管理者会議において伝え情報を共有し利用者のサービス向上に努めている。	業務のすり合わせをし、統一したケアの実践に努め、利用者が不安なく過ごせるよう話し合い、ケアサービスの質の確保を図っている。職員の希望休、年次休暇の取得、一人ひとりの家庭事情などを考慮しユニットや併設施設への異動を行い働きやすい環境作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績勤務状況を把握している。職員に対して感謝の気持ちを伝え向上心を持って前向きに働ける環境整備、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	タブレットオンライン研修を実施している。職員全体で学ぶ機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流する機会があり情報交換などしサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に安心して過ごして頂けるよう不安や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から不安や要望などに耳を傾け信頼関係を築いている。気軽に相談できるような関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事を見つけ職員と一緒にやっている。終わった後は労いの言葉をかけ対応、支え合う関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を頻回とし一緒に本人を支える関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は本人と一緒に食材の買い物に出かけたり馴染みの美容院などへの外出し関係が途切れないよう支援に努めている。	新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じ、馴染みの人との面会、近隣の散歩、ドライブなど人と密にならないよう対応を講じながら機会を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しており孤立せず関わり合いを持つよう職員が中に入って支え合うよう支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了(契約)しても介護などの相談に応じており関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活リズム、習慣を把握するよう努めている。集団生活の中でも利用者本位になるようサービス提供に努めている。	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を確認している。これまでの生活習慣を把握し、その人らしく暮らすための支援を行っている。ケアプラン会議などで職員は共有し、実践につなげている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがいこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から今までの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがいなどを聞き把握することに努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一日の過ごし方心身状態の把握に努めており変化があった場合は情報共有することとしている。本人の有する力が発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見、要望等を職員会議やカンファレンスで話し合い、意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	アセスメント、モニタリングを繰り返し、本人、家族、職員、関係者からの意見を反映し、話し合い作成している。家族へは専門用語を使わずわかりやすい言葉で説明を行っている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスの際に話し合われた意見やアイデアを参考にしながらモニタリングし課題の見直しを行い介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供会、老人会、自治会、民生委員、介護実習生の受け入れなどで地域資源を活用し支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医の説明を行い、希望に応じた病院を付き添い受診している。かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局などの事業所の関係は良好で適切な医療を受けられるよう支援している。	希望する医療機関の受診を支援している。協力医療機関からは、利用者ごとの課題に対してアドバイスをもらっている。口腔内の状況に応じて、歯科の往診を活用している。また月2回訪問看護の来訪があり、適宜受診につなげるなど健康管理を行っている。通院結果は、家族へは文書で、職員同士では連絡ノートや通院記録で共有している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと医療連携体制を取っている。月2回の訪問時には日常的に気付いたことを報告、特変があった場合は早めに相談し受診も考えた健康管理の支援をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は医療連携室担当者、担当看護師及び家族との関係を密にし情報交換や相談に応じて安心して治療ができるよう支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から本人や家族などと話し合っている。そのことは職員全体で方針を共有し地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	医師の協力が得られ看取りを行ったケースがある。医療機関との連携及び事業所の力量や体制に鑑み、本人・家族等と話し合い方針を共有している。月2回の訪問看護を行うと共に病院が近いメリットを生かし、都度相談しながら対応する最大の支援をしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え職員は救急救命を受講している。定期的に確認を行って実践につなげている。またマニュアルもすぐ傍に備え付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は防火訓練時に実施し避難訓練場所は事業所の関連敷地が広く確保され地域住民の一員として協力が得られるように努めている。また発電機、ハザードマップも見える所に準備されている。	火災や水害、地震、津波等、想定しうる避難訓練を行っている。避難所へ車や徒歩で移動する訓練を実施し、訓練から得た課題について話し合いを行っている。地域住民の協力も得られ、備蓄の他、玄関には救急災害袋を準備し有事に備えている。日々の活動から管理者、棟責任者は優良防火管理者として表彰された。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけや雰囲気づくりに努め安心、安全な環境を提供している。	前回の課題として挙げられた、トイレをカーテンで仕切っていることについて、事業所内で話し合い支援方法を検討し対応している。利用者一人ひとりの気持ちを大切に、その場面ごとに同性介助、異性介助を導入し柔軟な対応をしている。入浴や排泄については、特に羞恥心への配慮をし、排泄用品は普段目に触れないよう工夫している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がその人らしい思いや希望が表せるように働きかけ共同生活の中で納得しながら暮らせるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にその日の希望を取り入れた支援をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に意見も聞きながら利用者の好みや季節に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができる範囲ないで職員と一緒に準備やかたづけを行っている。また誕生日に希望を取り入れメニューを作成している。	下ごしらえや片付けなど利用者の力を活かしながら職員と一緒にいき、同じテーブルを囲み会話を楽しみながら食事をしている。正月やお盆などの行事食、また誕生日には好みのメニューや手作りケーキで祝っている。利用者の中には菓子店に勤務していた経験を持つ方がいることから、その方には当該店舗からケーキを購入し、思い出に寄り添った対応をしている。献立や栄養面に関して、併設施設の栄養士からアドバイスをもらっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態に努め、力量、習慣に応じた量や形態を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持のため、毎食後一人ひとりの状態に合わせ声かけ見守りにより支援している。夕食後は毎日入れ歯洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。声かけでトイレ誘導することによりオムツに頼らない自立に向けた支援を行っている。	日中、夜間ともトイレで排泄できるよう支援している。布パンツを使用している利用者も多く、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレに行くことを意識付けするよう支援し自立を目指している。レクリエーションで身体を動かし便秘予防をしている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘原因や及ぼす原因をよく理解し飲食物、水分補給や適度な運動を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	週2～3回の入浴を基本としている。、畑仕事など屋外に出た場合には、希望に応じて支援している。利用者が入浴を拒む場合には、言葉がけや対応する職員を変えるなどして支援に結びつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり生活習慣や日々の状況に応じて安心して気持ちよく休息したり眠れるようかかりつけ医と相談しながら支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成しており、薬の目的や副作用について理解している。また変更があった場合には速やかに周知し、薬剤師の説明も取り入れている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る範囲内で役割を持っていただき生活歴や経験を生かせるよう支援している。水分補給時には本人が好む物を飲めるようにしている。散歩などで気分転換を図っている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、他施設訪問、買い物などに誘ったりと戸外に出かける機会を多く持てるよう支援している。	コロナ禍で制限はあるものの、花火大会を居室から見て楽しんだり、子供七夕では地域の子ども達が来訪してくれたりなど、可能な範囲で気分転換を図っている。会社の方針と照らし合わせ、感染状況を確認しながら近隣の散歩を行っている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ大切さは理解しているが家族の希望で利用者には持たせておらずホームで管理している。その中の一部を本人が持参し職員同伴で買い物に出かけている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人からの電話の取次ぎや利用者が電話をしたい時は希望に添い支援している。また手紙のやり取りもできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者と職員が一緒に作成した季節感が味わえる飾り物を貼り、行事の写真も貼っている。共有空間は掃除、消毒を行い不快がなく居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	季節を感じられる飾り物や写真が温かい雰囲気となっている。毎日消毒を兼ねた掃除をしており清潔で、温度や湿度も管理され居心地の良い空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には利用者同士が思いおもいに過ごせるようにソファがありテレビを見たり新聞を読んだりしながら自由に過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅中に使用していた馴染みの物を使用している。利用者個々の認知状況、ADLに合わせた居室作りになっている。	テレビや写真、位牌、アルバムや愛読書など馴染みの物を持ち込み、その人らしく居心地のよい居室作りに努めている。転倒予防のため、季節ごとに衣類等の整理をし、環境整備を心掛けている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が毎日安全に生き生き生活できるよう、床がバリアフリー仕様、ホール・廊下・トイレ・浴室に手すりが設置されている。		